トップニュース

イスラエルとハマスの軍事衝突

停戦と終結を願い 池田総長名で声明

多くの尊い命が奪われているイスラエルと武装組織ハマスとの軍事衝突の即時停戦と早期終結を願い、浄土真宗本願寺派は池田行信総長名で11月17日、声明を発表した。その全文を掲載する。

イスラエルとハマスとの軍事衝突に対し 即時の停戦と早期の終結を願う声明

私たちの宗門では、2022年2月24日のロシアのウクライナ侵攻に対し、「我々は、被爆国の市民として、生命を慈しむ仏教徒として、世の安穏を願う念仏者として、この武力侵攻を非難し、自己正当化をくりかえす権力者の愚かさを批判し、歴史をかえりみつつ、この戦争の一刻も早い終結を願う」という宗会決議が採択されました（2022年3月4日）。しかしいま、私たちは、再び同じことばを、悲痛な思いで、別の武力紛争に対して投げかけねばなりません。

2023年10月7日、武装組織ハマスのミサイル弾攻撃によって始まったイスラエルとハマスの軍事衝突により、特にガザ地区は地獄の様相を呈しています。この紛争の残酷さと理不尽さを最も明瞭に表しているのは、イスラエルによるガザ地区の病院への攻撃です。非武装の市民の命を盾に取る武装組織と、非武装の市民の命が巻き添えになることもやむなしとする世界有数の強大な軍隊の衝突がもたらすものは、多くの一般市民の、特に子どもや女性の犠牲にほかなりません。「ガザでは、死者は1万1千人を超えた。そのうち、子どもの死者は11月11日時点で4割を超す4506人に上る」と報道されています。11月6日の会見での「ガザは子どもの墓場になりつつある」というグテーレス国連事務総長の言葉が胸に突き刺さります。

宗祖親鸞聖人の時代も戦乱の時代でした。聖人はその時代を直視し、最も苦しい立場にある人々を「いし、かはら、つぶてのごとくなるわれら」として、共に生き抜かれました。自分だけの安穏を願う生き方にとどまることなく、共にお念仏で結ばれた「われら」という言葉に込められた聖人の思いに深く耳を傾けたいと思います。今、私たちは、親鸞聖人のみ教えを依りどころとすることはもちろん、苦しみ悲しむ人々と共に歩まれたその生き方に学ぶことが必要です。

戦争に勝者はありません。私たちは、四十八願で「地獄、餓鬼、畜生」などの苦しみのない世界を願われた阿弥陀如来のお心に導かれ、自他共に心豊かに生きることのできる世の安穏を願う念仏者として、このたびの軍事衝突で苦しむ全ての人々に目を向け、即時の停戦と早期の終結を願います。

2023年11月17日
浄土真宗本願寺派総長
池田行信

「若者への期待に応え」

群馬・清照寺　青年部が主催し慶讃法要

「主体となれたこと意義深い」

群馬県安中市の清照寺（藤野正親住職）は10月22日、同寺の青年部（柳澤剛代表）が主催し、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要を同寺歴代世話人物故者総追悼法要と併せて営んだ（写真）。

青年部は2018年に発足。仕事の第一線に立つ世代の人たちが「出来る人が、出来ることを、出来るときにする」をモットーに、LINEで連絡を取り合いながら同寺の年中行事を手伝うほか、法要やイベントへの参加、参拝旅行、懇親会（飲み会）などの活動を行っている。現在メンバーは10人。平均年齢は45・7歳、最年少は29歳だ。

1年半ほど前から法要を青年部主催で営むという企画が持ち上がり、折々にメンバーで打ち合わせを重ね、同寺の門徒総代や世話人などで組織する護持会役員（菅田則芳会長）の指導を受けながら詳細を詰めてきた。打ち合わせ場所も、同寺や懇親会の場などさまざま。普段から連絡を取り合うLINE上でも打ち合わせを重ねた。また、法要に向けて今年5月には、青年部のメンバーが同寺代表として本山の慶讃法要に参拝した。

法要の案内状や配付資料の作成、会場設営、当日の受付、司会進行、駐車場係、接客係、写真係などの役割をそれぞれで分担。配布した資料の開催趣旨には、「親鸞聖人と私たちの先達者のご苦労に報いつつ、そして『世のなか安穏なれ、仏法ひろまれ』との親鸞聖人のお言葉を胸に、次世代を担う私たち若者に寄せられる期待に応えるべく、本法要を営ませていただきたい」と思いをつづった。

法要は快晴の中、和やかながら厳粛に営まれた。法要を終えて柳澤代表(50)は「次世代を担う若者に寄せられる期待に応えるべく、今回は青年部が中心となって企画や準備を進め、実施に至った。法要のお手伝いとしてではなく、青年部が主体となり進められたことは大変意義深いと感じている」と話した。

藤野住職は「お寺として、誠に有り難いご勝縁と感謝している。お念仏の繁盛と寺門興隆を念頭にして、無理、無駄のない組織づくりを考えていきたい」と語った。

慶讃法要を終えての記念写真。護持会役員などを囲むように、最後列と左端前方に写るのが青年部のメンバーたち。右端が藤野住職

御正忌報恩講 お斎 申し込み受付開始

阿弥陀如来の本願のおこころを明らかにしてくださった宗祖親鸞聖人。聖人のご命日（1月16日）にあたり、ご遺徳を偲び、そのご恩への感謝の思いでおつとめする御正忌報恩講が、来年1月9日から16日まで本山で営まれる。

御正忌期間中には、午前と午後の法要の間に、「お斎（とき）」（右に写真）が国宝・鴻之間（こうのま）で振る舞われる。その申し込み受付が12月1日午前9時から始まる。

お斎接待は1月10日から15日の日中法要（午前10時から）終了後に行われる。定員（1回120人）を超過した場合は複数回に分けて実施する。懇志（1人1万円以上）を進納した人へのお扱い。

申し込みは本山・参拝教化部に電話（075―371―5181）または直接。懇志は当日もしくは現金書留で進納する。問い合わせは同部。

定期休刊のお知らせ　12月10日号（第3503号）は定期休刊です。次回発行は12月20日号です。

本願寺新報 2024年 新年特集号

年の初めは浄土真宗から

釈徹宗さんの新春エッセーも

新しい年を迎えます。年の初めは浄土真宗からと、宗教学者・釈徹宗さん（相愛大学学長）のエッセー「真宗門徒のお正月」をはじめ、「浄土真宗の法語とともに1年を」と、人生を支える法語（法語カレンダーより）の特集も。このほか、新年にお読みいただきたい記事が盛りだくさん。新年の施本としてもご活用ください。

ご予約を受付中

1部120円。50部以上の一括申し込みには割引があります（50部以上1割引、100部以上2割引、500部以上3割引）。

ご注文は本願寺出版社注文専用フリーダイヤル0120（464）583。

本山の御正忌報恩講がテーマの特集では「お斎」を紹介。精進料理・矢尾治の上田倫正さんが家庭でも作れる一品を伝授。

本願寺新報
hongwanji journal

12月1日（金曜日）

毎月1日・10日・20日発行

発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派（西本願寺）本願寺出版社内
〒600-8501
電話 075(371)4171(代) ／ FAX075(341)7753

寺院会計・幼稚園会計・保育園会計・税務・相続対策
◆宗派顧問税理士のゆびすいにお任せください◆
ゆびすいグループ
税理士法人ゆびすい
グループ拠点▶堺・大阪・東京・仙台・名古屋・京都・和歌山・岡山・広島・福岡
信頼と安心、そして未来へ… YUBISUI
0120－067－149
文化庁主催『宗教法人実務研修会』の担当講師
http://www.yubisui.co.jp　ゆびすい　公益　検索

新しい「領解文」（浄土真宗のみ教え）

南無阿弥陀仏
「われにまかせよ　そのまま救う」の　弥陀のよび声
私の煩悩と仏のさとりは　本来一つゆえ
「そのまま救う」が　弥陀のよび声
ありがとう　といただいて
この愚身をまかす　このままで
救い取られる　自然の浄土
仏恩報謝の　お念仏

これもひとえに
宗祖親鸞聖人と
法灯を伝承された　歴代宗主の
尊いお導きに　よるものです

み教えを依りどころに生きる者　となり
少しずつ　執われの心を　離れます
生かされていることに　感謝して
むさぼり　いかりに　流されず
穏やかな顔と　優しい言葉
喜びも　悲しみも　分かち合い
日々に　精一杯　つとめます

赤光 白光

『聞く技術 聞いてもらう技術』（筑摩書房）という本に出会った。「聞く」と「聴く」はどちらが難しいかと著者は自問自答されていた。そして、「聞く」は耳に入ってくる、「聴く」は耳を傾けると論じ、「聞く」の方が難しいとつづっている。

▼この本を読み、かつてある先生に伺った話が新鮮に思い出された。「『聴』は、私の方から足を運んできいていく。『聞』は、向こうからきこえてくる声をきく。能動的と受動的とも表現できよう。聴いたからといって、必ずきこえてくるとは限らず、しかしまた聴くことがなければ、きこえてこない」と話されていた。「聴く」と「聞く」、どちらも大切で欠かせないものだと教えられた。

▼最近届いたある友人の手紙で「聞く」姿勢について考えさせられた。手紙には「人間の苦しみ、恐怖を和らげ、除くためには、個々人が納得する教え、理論が必要であるように思います。それが仏教でしょうか」と認められていた。読み終わり、ある知人を思い出した。その知人は、お寺の法座に、場所を問わず、時間のあるかぎりひたすらお参りし、楽しんで聞法にいそしんでおられる。この2人の姿を重ねながら、「頭で聞く」ということと、「身で聞く」という2つのタイプがあるように思えた。

▼親鸞聖人は「弥陀のちかひをもききはじめておはします身」「煩悩具足したる身」など、しばしば「身」の文字を用いられている。聞くということについて、わが身をもって聞いていかれているのである。

みのはん　抗ウイルス指紋レス和机 H70cm 3人膳 4点セット　50万円以上ご購入で表示価格よりさらに10%OFF!
国産　軽量　折り畳み
3人膳を2人掛けして広々とご利用もいただけます。

国産軽量
折り畳みスタイリッシュ脚
抗ウイルス指紋レス和机
3人膳 4点セット
か～るいコンパクトチェアとセット
HGS-035 A 抗ウイルス指紋レス黒木目天板
HGS-036 L 抗ウイルス指紋レス黒茶木目天板
HGS-037 Z 抗ウイルス指紋レスくるみ茶黒天板
各¥91,740
各種和机の天板は3色から選べます！
抗ウイルス・抗菌性能
使い勝手が良い！みのはんの和家具
みのはん　ご注文はお電話で承ります
0120-54-5010
本社／〒509-5142 岐阜県土岐市泉町久尻1431-20
■ファックスでのご注文【24時間受付】
FAX.0120-583-555
詳しくは みのはん家具サイト https://minohan-furniture.com/
全国各地で展示会を開催しております。
各地域において展示会開催をご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。担当:小木曽・大矢
経机
持ち運びに便利な経机です。
取り外し

HGS-038
経机（取り外し式）
60×35×H75cm
重量／約8.0kg
※タイ製
¥25,300
※表示価格は、消費税込みです。
机、椅子は各地域に応じて、別途配送料が必要となります。詳しくはお問い合わせ下さい。※椅子/頻繁に在庫変動するため、納期が遅れる場合があります。予めご了承下さい。

新刊　和歌から読み解く、平安貴族たちの偽らざる心
平安貴族の和歌に込めた思い
～菅原道真・藤原道長・紫式部・清少納言・白河天皇・源頼政・慈円・土御門通親～
今井雅晴（筑波大学名誉教授）

『鎌倉時代の和歌に託した心』シリーズの続編。『源氏物語』の紫式部、『枕草子』の清少納言、菅原道真ら平安貴族8人の心の機微に迫る。藤原道長「このよをば」の歌の本当の意味とは？
B6判・並製・192頁　1980円

重版出来
浄土真宗本願寺派 日常勤行聖典 解説と聖典意訳
豊原大成 編著（本願寺派元総長）
正信偈・讃仏偈・重誓偈・阿弥陀経・御文章に現代語訳を付す
B6判・並製・120頁　330円
＊50部以上1割引／100部以上2割引
＊価格はすべて税込　＊送料・発送手数料：ご注文合計6,600円未満＝一律400円、6,600円以上＝無料
合同会社 自照社　ホームページ：https://jishosha.shop-pro.jp
【大田利生先生 書き下ろしコラム配信中!!】
滋賀県大津市日吉台4-7-7　電話：077-507-8209　FAX：077-507-9926

近代日本の鉄道事業の発達に本願寺の果たした役割とは
本願寺と鉄道の近代史
中西直樹 著
日本近代の鉄道発達に本願寺が果たした役割、鉄道布教に集約的にあらわれた近代真宗の社会的実践・教化事業に関して、その実態を明らかにした。
A5判・上製・314頁・本体4,800円＋税　ISBN978-4-86691-591-3
2023年9月刊行

龍谷叢書59　親鸞生誕八百五十年・立教開宗八百年記念出版
近代本願寺絵図と観光地京都
中西直樹 著
近代の東西本願寺の歩みを、豊富な絵図・写真を用いて解説。「京都学」の学習・近代仏教史研究の必携書。
B5判オールカラー148頁・コデックス装
本体3,800円＋税　ISBN978-4-86691-418-3
2022年9月刊行

※内容見本進呈
㈱三人社　〒606-8351 京都市左京区岡崎徳成町29-3　岡崎ミントビル
電話075-762-0368　FAX.075-762-0369　https://3nin.jp/

漫画 親鸞さま
作 岡橋徹栄　画 広中建次
A5判／228頁　1100円(税込)

難しい本や史料が苦手な方でも、親鸞聖人のご生涯、そのご苦労と偉大さを漫画で読める。

本願寺出版社
0120-464-583　FAX 075-341-7753
〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル(西本願寺)
https://hongwanji-shuppan.com/
発送梱包手数料別(税込3,000円以上は無料)